

事業事前評価表（技術協力プロジェクト）

作成日：平成17年6月15日修正

担当部・課：JICA ケニア事務所

1. 案件名

ケニア国半乾燥地コミュニティ農業開発計画

2. 協力概要

(1) プロジェクト目標とアウトプットを中心とした概要の記述

本プロジェクトは、ターゲットグループ（プロジェクト対象地域の小規模農民、農民組織、牧畜民、女性、若年者）が持続的に農業生産を増加することを目的とし、①コミュニティによる住民主体型プロジェクトの計画作成及び実施の強化に係る支援、②半乾燥地における適正な作物・畜産技術の実証、③農業省普及員といった政府の職員だけでなく、民間、NGOsをも視野に入れた複合的普及サービスの推進に係る協力をを行う。

また、それらの結果をコミュニティ農業開発ガイドラインとしてまとめ、他地域への普及に役立てる。

(2) 協力期間

2005年10月上旬～2010年10月上旬（5年間）

(3) 協力総額（日本国側）

3.3億円

(4) 協力相手先機関

農業省

(5) 国内協力機関

日本大学

(6) 裨益対象者及び規模、等

直接裨益対象者：プロジェクト対象地域（マラクエット県 Tunyo と Tot の2郡、ケイヨ県の Metkei、Soy、Tambach の3郡）の住民 92,295 名の約半数（コミュニティ開発計画を作成するコミュニティの人数）、マラクエット県及びケイヨ県の農業省及び畜産漁業開発省職員約 50 人

間接裨益対象者：ケニア国の半乾燥地域住民

3. 協力の必要性・位置付け

(1) 現状及び問題点

ケニア国における農業セクターの成長率は、1980年代の6.7%から、2002年には0.7%に低下した。人口増は、依然として年率2.8%という高い割合で続く一方、生産作物に適した高生産性地域は、ケニア国全土の17%に過ぎない。人口圧力の高まりにつれ、人口密度の低い乾燥・半乾燥地域（ASAL）への人口移動が始まり、農業生産に必要な資源の劣化を引き起こしている。

上記のような状況を改善すべく、これまで、農業セクターにおいて、数々のプロジェクトが実施されてきたが、その多くは、中央省庁によって計画されたものであり、草の根の実情に即したきめ細かな協力がなされなかったために、十分な効果を上げることができなかった。

このような状況の下、農業省は、中央レベルではなく、草の根レベルでの開発計画の策定及び実施が重要であると考え、家畜漁業開発省と協力し、農業再活性化戦略（Strategy for Revitalizing Agriculture:SRA）を策定した。その戦略の中では、コミュニティレベルでの計画立案能力の向上、農業普及において、政府組織に加え、住民組織やNGO、民間セクター等多様な担い手の活用を謳っており、それらの実践を早急に行うことが課題となっている。

(2) 相手国政府国家政策上の位置付け

SRA では、食料安全保障の確立を最重要課題としており、またその投資計画においては、貧困削減のための小農支援を行うこととしている。

- (3) 我が国援助政策との関連、JICA 国別事業実施計画上の位置付け（プログラムにおける位置付け）
現在作成中の国別事業実施計画では、5 つの重点分野が挙げられており、その中の 1 つが農業開発である。
同計画では、SRA への支援を上位目標と位置付けており、食料安全保障を確立するための持続的な農村開発に係る支援が重要であるとしている。

4. 協力の枠組み

本プロジェクトにおいては、以下の手順で実施し、それらの支援を専門家が行うこととする。

・ボトムアップ型

- (1) コミュニティが開発計画を策定する。
- (2) コミュニティが上記開発計画を基に、プロジェクトプロポーザルを作成する。
- (3) プロポーザルを農業省が中心となる PMU が審査する。
- (4) コミュニティにより、プロジェクトが実施される。
- (5) 上記の結果を取りまとめ、コミュニティ開発ガイドラインを作成する。

・トップダウン型

- (1) 適切な作物生産・畜産生産技術が確認される。
- (2) 上記技術を住民が受け入れる（技術が実証される）。
- (3) コミュニティ開発計画に反映する。

以下は、ボトムアップ型と同様。

[主な項目]

(1) 協力の目標（アウトカム）

① 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）と指標・目標値

[目標]

ターゲットグループが、持続的に農業生産を増加する。

[指標]

ターゲットグループの農業生産量が 15% 増加する（ベースライン調査と終了時評価調査によって得られたデータの比較）。

② 協力終了後に達成が期待される目標（上位目標）と指標・目標値

[上位目標]

ケニア国の半乾燥地域における農業生産が増加する。

[指標]

食料生産量が増加する。

（プロジェクト開始 6 カ月以内に設定する。）

(2) 成果（アウトプット）と活動

① 成果 1

住民主体型プロジェクトの計画作成と実施が強化される。

(活動)

ベースライン調査の実施、PCM 及び PRA に関する農民研修の実施、農民グループの同定及び支援、プロジェクトへの地域コミュニティのメンバー及びリーダーの参加促進

(指標)

(a) 住民主体型プロジェクトの実施数が 150 件（30 件×5 年）となる。

(b) 開発計画を作成するコミュニティ数が 40 となる（全サブプロケーションの約半数）。

② 成果 2

適正な作物・畜産生産技術が実証される。

(活動)

現存及び潜在的な技術及びその適用例調査、ターゲットグループと技術開発の担い手との連携促進、農民受容性の高い適正技術の開発（集水農業、新品種や新たな栽培技術・収穫後技術の導入等）、新技術の圃場レベルでの実証、作物・畜産生産技術に係る研修の実施

(指標)

実証された技術数（プロジェクト開始後、6 カ月以内に設定する。）

③成果 3

複合的普及サービスが推進される（複合的普及サービス：普及員、民間セクター、NGO 等による農民に対する農業技術普及）。

（活動）

普及サービスの担い手に関する簡易調査の実施、連携活動の実施、普及サービスの担い手の活動支援、複合的普及サービスシステムの実施計画作成

（指標）

- (a) 複合的普及サービスの実施数及び対象戸数
- (b) 農家圃場研修会等の各種研修の実施回数
（プロジェクト開始後、6 カ月以内に設定する。）

④成果 4

コミュニティ農業開発のガイドラインが作成される。

（活動）

上記活動に係るデータ収集及び分析（地域賦存資源、資源保全技術、農作物市場調査、食料生産・消費調査）、コミュニティ農業開発のためのガイドラインの作成

（指標）

コミュニティ農業開発ガイドラインの完成

(3) 投入（インプット）

①日本国側（総額 3.3 億円）

- ・長期専門家：2 名（チーフアドバイザー／半乾燥地農業、業務調整／コミュニティプロジェクト）
- ・短期専門家：必要に応じて派遣する。
- ・機材供与：車両、パソコン、視聴覚機材等
- ・C/P 研修：年間 1 名程度
- ・現地業務費：日常的経費、試験研究委託費、農民研修費、コミュニティプロジェクト支援費、コンサルタント雇用費（半乾燥地農業、コミュニティプロジェクト）

②ケニア国側

- ・施設：プロジェクト事務所及び専門家執務室の提供
- ・C/P の配置：日本人専門家に対する C/P 及び補助職員の配置
- ・必要予算の措置：a) 運営費、b) 機器の維持管理費の一部

(4) 外部要因

①上位目標達成のための外部要因

半乾燥地域の食料安全が改善されるためには、作成されたコミュニティ農業開発ガイドライン普及に関する体制（政策）の変更が無いことが必要である。

②プロジェクト目標達成のための外部要因

プロジェクト対象地域では、隣接する部族が対象地域住民を襲撃し、家畜を奪う事件が散発的に発生する。このためターゲットグループが持続的に農業生産を増加するためには、隣接する部族との軋轢を解消し、農業生産活動に専念することができるような治安の維持が必要である。

5. 評価 5 項目による評価結果

(1) 妥当性

ア) ケニア国の国家開発計画である、PRSP と ERS 及び農業政策である SRA で宣言されている上位課題の貧困削減と食料安全保障の目的に合致していること、イ) 厳しい農業生産環境に居住するコミュニティの食料確保、貧困からの脱却というニーズに合致していること、ウ) JICA 国別事業実施計画（平成 14 年度 4 月改定）は、ケニア国農業開発において半乾燥地を対象とする参加型農民開発手法の確立を、事業計画の 1 つに掲げており、日本国のケニア国に対する開発方針と手法の理想に一致していること、エ) また、本計画は過去に実施した「バリンゴ県半乾燥地域総合村落開発調査」の実証プロジェクトを通じたマスタープランに基づき、計画内容には実証プロジェクトの成果と教訓が生かされている。

以上により、本件実施の妥当性は高いと判断する。

(2) 有効性

本件、コミュニティ自身の開発計画策定能力を向上させ、コミュニティから提案されたコミュニティ農業開発案を一定の基準を以って透明性を確保しつつ審査、実施するものである。

一方、コミュニティ農業開発案のコンポーネントとなり得る、半乾燥地における持続的な農畜産業を営むための適正技術は、プロジェクトマネジメントユニット（PMU）からの提案（トップダウン）とターゲットグループからの提案（ボトムアップ）が想定されている。それらは、NGOs、試験研究機関、民間セクター、農業普及員により技術の適正度、普及可能性、市場性などが明らかにされ、コミュニティへ伝承されることとなる。

その結果、ターゲットグループは参加型コミュニティ農業開発のアプローチを習得し、その開発コンポーネントに、半乾燥地における実証済みの適正技術を導入することで、持続的な農業生産が営まれ、ターゲットグループが農畜産業生産を増加させることが想定され、本件プロジェクト実施の有効性は高い。

(3) 効率性

本件プロジェクトにおいては、大規模な施設建設や機材供与は計画に含まれていない。長期派遣専門家は、チーフアドバイザー/半乾燥地農業、業務調整/コミュニティプロジェクト管理の2分野であり、専門家の業務活動の一部となる現地適応化試験/普及、モニタリング/評価については、現地の言語・風習や適正技術等に精通したローカルコンサルタントを、現地業務費で雇上する計画である。これにより、人件費の節減のみならず、周辺地域より収集される適正技術の効率的な収集と実証が可能である。

また、コミュニティプロジェクトを実施する場合の1件当たりの予算、技術コンポーネントの適正度、期間、手続き、住民の自助努力度、コストシェアリング等、コミュニティ農業開発提案書の審査基準（ガイドライン）を確実にし、限られた予算の有効な活用と透明性の確保により、効率的なコミュニティ農業開発が実施され得る。

チーフアドバイザーとして派遣予定の長期専門家は、すでに確保されている。現在、ケニア国農業省の個別専門家として「バリング県半乾燥地域総合村落開発調査」実証プロジェクトのフォローアップを実施中であり、この業務経験により、ターゲットエリアでの現状把握・活動等を効率的に行うことができると判断する。

したがって、プロジェクトの成果に対する投入の効率性は高いと判断される。

(4) インパクト

上位目標である、ケニア国の半乾燥地域における食料安全の改善については、本プロジェクトで作成されたコミュニティ農業開発ガイドラインを、SRAの実実施計画に反映させることにより、類似案件に広く適用することで達成が見込まれる。またその結果、コミュニティ農業開発の優良モデルとしてケニア国内で認知され得る。

自然環境、ジェンダーについての、負のインパクトは、特に予想されない。

(5) 自立発展性

プロジェクト目標は、農業省の政策に合致しており、農業省は半乾燥地のコミュニティ農業開発をプロジェクトの終了以降もそのアウトカムを継続させる責任を持つ。

プロジェクトで採用される技術普及システムは、農業省の謳う **Pluralistic extension service delivery system** の概念に合致している。本技術協力プロジェクトを通じて技術移転される現場の C/P となる県農業職員、郡農業普及員、ロケーションレベルの農業普及員プロジェクトのコミュニティ農業開発における役割を、**Pluralistic extension service delivery system** 行動計画の中で明確にすることとする。その結果、コミュニティ農業開発予算の確保とそれを担う農業省職員の活動が担保され、他の普及事業を担う NGOs、民間セクターとの普及活動の協働が可能となる。

さらに、プロジェクト終了後プロジェクトマネジメントユニット（PMU）の役割を残す方法、機能の継続方法、関係者の知見のプロジェクト関係者外への伝承方法等、5年後のプロジェクト終了と PMU の解散後の姿を描くこととし、自立発展性を高めていく。

6. 貧困・ジェンダー・環境等への配慮

ケニア国における絶対貧困層は人口の 56%、1,500 万人以上にのぼると推測され、貧困の軽減に農業開発を通して貢献するものである。また、本件プロジェクトの実施にあたっては、住民からの要請に基づき、有効なものを実施していくこととするが、案件選定の段階から、ジェンダー及び環境に配慮したものを採択することとする。

7. 過去の類似案件からの教訓の活用

平成 11 年度～平成 13 年度まで、ASAL における持続的な開発手法の策定を目標とした「バリントゴ県半乾燥地域農村開発計画調査」を実施した。その結果、農村開発に対する取り組みとしては、農村のニーズに適合させた小規模なプロジェクトを、農民によるコストシェアリングを前提としたコミュニティ合意形成に基づいて実施することが、持続的かつ確実な成果を期待できる手法として提案された。本件は上記開発調査で実証された、参加型農村開発手法を応用・展開し、ケリオバレーにおける農業を主体とした農村開発プロジェクトを実施するものである。

8. 今後の評価計画

中間評価（2008 年 4 月頃）、終了時評価（2010 年 4 月頃）、事後評価（終了時から 3 年後）